

## 【実録】エロなまはげが女湯襲撃。痴漢行為と動画撮影。

2 人の若い女性が旅館へと入っていく。  
チェックインを済ませて、部屋へと案内されていった。

その様子を旅館の入り口の座席で、眺めていた、5 人の若い男たち。

「久しぶりの上玉じゃねえか」

「よし、やるぞ。準備しよう」

そう言って、立ち上がりどこかへいった。

「けっこういい旅館じゃない」と東京から旅行できた亜沙美が言う。

「そうねえ、当たりかな、今回は」と加奈子が答えた。

2 人は、東京の大学に通う女子大生だ。

共に旅行が趣味で、大学の休みの期間を利用して、旅行に行くことが多かった。

それほど、計画的に旅行するのではなく、行き当たりばったりの旅行を好んでいた。

今回も、なんとなく東北に行きたいねというところから始まって、A 田県のO市に旅行に来たのだ。

旅館の和室で、一息ついているところだ。

「さっき、おかみさんも言ってたけど、なまはげが有名みたいだね」と加奈子が言う。

「そうね」と亜沙美が興味なさそうに答えた。

「どっか散策に出てみる？」と加奈子が尋ねる。

「いいや。ちょっと疲れたし、もうちょっと部屋でゆっくりしてから、露天風呂行ってみよ」と亜沙美が言う。

「オッケー」と加奈子が言った。

「まだ部屋にいるっぽいな」

「くー。早く風呂行ってくれないかな。もう、待ちきれねえ」

亜沙美と加奈子の部屋の扉を確認できる物陰にいる 5 人の若い男たち。

手には全員、なまはげのお面を持っている。

「じゃあ、そろそろお風呂行ってみよっか」と亜沙美が言う。

「オッケー。いこいこ」と加奈子が応じた。

露天風呂に行く、準備を済ませて部屋を出た。

露天風呂は旅館の別館にある。

少し歩いて行って、そこを目指す。

それほど大きな旅館ではないのと、今日が平日ということもあって

客の姿はまばらだった。

「あんまりお客さん、いないね」と加奈子が言う。

「うん。でもいいじゃん。この方がゆっくりできそう」と亜沙美が言う。

「そうね」と加奈子が答えた。

露天風呂の入り口に着いた 2 人は、さっそく女性用の脱衣所に入った。

「誰もいないみたいだね。荷物が全然ない」と  
亜沙美。

「貸し切りじゃん。ラッキー」と加奈子が言った。

若い男性 5 人も露天風呂の前に着いた。

「しー、しー」と言い合って、息を潜めている。

『清掃中により使用不可』と書かれた立て看板  
を、入口付近に置く。

脱衣所で服を脱いで、露天風呂の方へと向か  
う亜沙美と加奈子。

脱衣所に置いてあった大きいタオルを体に巻  
き付けている。

風呂場は男女別だ。

「ひろーい。いいじゃん。解放感あって、いい雰  
囲気じゃん」と加奈子が言う。

「うん、そだねー。やっぱ貸し切り状態みたい」  
と亜沙美が応じる。

2 人はかけ湯をして、さっそく湯船につかった。

タオルは外して、裸になり、湯船につかる。

「くぁー。ごらく、ごらく」と加奈子がお決ま  
りの文句を言う。

「なんか、加奈子、おじさんみたい」と亜沙美が  
声をたてて笑った。

女性の脱衣所に入っていく若い男 5 人組。

すでに全員、なまはげの面を顔につけている。

だが、それを一旦外して、ついさっき、女性 2  
人が脱いでいった服を漁る。

「うほー、うほー」